

# 探究科1年 国際交流学習Iで留学生と交流し、スキルアップ

平成29年9月25日の5, 6限、探究科1年80人は、コモンホールと図書室を会場に、山口大学工学部と宇部高専の留学生16人を招いて、夏休みに実施したミニ課題研究（ホームプロジェクト）の内容を英語で説明するとともに、留学生の母国の話を聞き、交流しました。

この行事の開催にあたり、生徒たちは研究の英訳や英語でのプレゼンに向けて「プロダクティブイングリッシュ」や「基礎探究」の時間を使って、準備・練習してきました。伝えたいことを英語で表現し、伝わる楽しさ、伝わらない悔しさを感じながら、コミュニケーションのコツや英語学習の意義を学んだ大切なひとときとなりました。



## 生徒の感想

- ・英語の大切さが分かった。もっと上達したい。単語が分からなくても、一生懸命聞くことができた。
- ・英語でコミュニケーションをとることで少し自信がついた。もっと英語を勉強したいと思える会だった。
- ・良い経験が出来た。留学生のプレゼンテーションの時間をもう少し長くしてほしいです。
- ・クラスメイトの英語の発表を何度も聞いていると、だんだん内容が理解できていく自分がいて、経験を積むことの大切さを実感しました。
- ・実践的なことをすることで、より英語を学びたいという気持ちが強くなりました。
- ・日本語混じりで何となくの英語を使ってしまいがちだが、オールイングリッシュで発表し、会話することで、英語で伝えることの楽しさを感じた。もっと、このような機会が欲しいと思った。

## <留学生の感想より>

- ・今回の学習会は生徒のコミュニケーションスキル向上に役立ち、英語技能の向上にもつながる。
- ・生徒はすばらしく、プレゼンは興味深かった。1年生としては英語もプレゼンスキルもとても良い。さらに向上する余地があるので、こうした企画を重ねてほしい。
- ・非常に勉強になった。母国についてプレゼンする機会に感謝し、また生徒のホームプロジェクトについて聞くことができよかった。こうした試みを通じ、生徒の論理的な思考が養われていくと思う。

<参加してくれた留学生>（敬称は省略させていただきました）

キム、ジョン（韓国）、アレイソ（東ティモール）、チョウ、コ（中国）、ナム、ユーン、コング、ビーン（ベトナム）、ソルシ（イラン）、アシュラフ、シャヒーラ（エジプト）タウン、グランディ（インドネシア）、ヌルシャリーナ、ラフル（マレーシア）